

日清製粉グループ 第3四半期連結決算、通期連結業績予想

原材料価格等の大幅な上昇に伴い価格改定を実施するも、更なるコストアップ等により減益。通期業績は11月予想を据置き。

今期、5百万株、55億円の自己株式取得を実行し、積極的な利益還元を継続。

[平成20年3月期第3四半期連結決算]

株式会社日清製粉グループ本社（社長 村上一平）の平成20年3月期第3四半期（平成19年4月1日から平成19年12月31日まで）につきましては、引続き販売競争が激化し、原材料価格が高騰する中、各事業において新製品投入などにより売上を拡大するとともに、更なるコスト削減や生産性向上に取り組んでまいりました。しかしながら輸入小麦の政府売渡価格の引き上げや、原油価格、穀物相場の急騰などによる調達コストの大幅な上昇は内部努力で吸収できるレベルを超えているため、価格改定を実施いたしました。

また、こうした業績向上への取組みと併せて積極的な利益還元を継続しており、今期におきましても昨年12月までに5百万株、55億35百万円の自己株式取得を実施しました。

この結果、売上高は3,225億73百万円、前年同期比1.9%の増収となりましたが、利益面では価格改定時期の関係からコストアップの全てをカバーできず、また更なるコストアップも発生したため、営業利益は137億41百万円、前年同期比△3.1%、経常利益は167億99百万円、前年同期比△0.5%の減益となりました。なお、四半期純利益は特別利益の増加により99億18百万円、前年同期比16.2%の増益となりました。

[平成20年3月期通期連結業績予想]

第4四半期におきましても、引続き厳しい販売競争や更なるコストアップも見込まれます。当社グループは各事業において、シェアアップやコストダウンなどの各施策を推進するとともに、価格改定への取組みを継続いたしますが、通期業績につきましては11月公表のとおり、売上高は4,280億円、前期比2.3%の増収、利益面では、営業利益は185億円、前期比△3.6%、経常利益は221億円、前期比△3.1%、当期純利益は120億円、前期比△2.5%とそれぞれ減益となる見込です。

当期の業績は厳しい状況とはなっておりますが、東灘工場製粉新ラインの稼働、館林工場プレミックス新ラインの建設などコスト体質強化を図り、一層のコスト削減に努めるとともに、シェアアップの実現、次世代新製品の上市加速など、積極的に推進してまいります。

以上